第5群

10

新設緩和ケア病棟に勤務異動する看護師の準備性
－異動前のインタビューを通して－

○片岡　健　　大谷　文江（細木病院）
豊田　邦江　　古郡　夏子（細木病院）

はじめに

現在、緩和ケア病棟の新設が進み、徐々にではあるが、その数は増加している。一方、緩和ケア病棟に勤務する看護師は、様々な不安やストレスを抱いているという声も聞かれ、自ら勉強会・学会に参加するなど、準備を整えている姿もみられる。

今回、私たちは新設される緩和ケア病棟に勤務異動予定の看護師はどのような準備性を持っており、それをどのように高めて行ったかその内容を明らかするために勤務異動予定者に対しインタビューを行ったので報告する。

Ⅰ　研究目的：新設される緩和ケア病棟に勤務異動予定の看護師はどのような準備性を持っており、それをどのように高めていったかを明らかにする。

Ⅱ　研究方法：民間病院に新設される緩和ケア病棟勤務異動予定者で、研究の目的・内容について説明し同意の得られた看護師６名。許可を得てテープ録音し、逐語録としてテープ起こししデータとした。＜用語の定義＞（１）新設緩和ケア病棟：「既存の医療施設に新たに設置される､がん終末期患者を対象とする緩和ケア病棟」（２）緩和ケア病棟に勤務異動する看護師の準備性：「緩和ケア病棟に勤務異動が予定されている看護師の、異動に対する準備・覚悟の状態であり、あることをするのに必要なものや態勢を前もって整えていること」とする。

Ⅲ　倫理的配慮：参加同意のサインを得られたもののみを対象とし、匿名性の保持・データ管理を徹底して行なった。研究結果は公表することの同意を得、研究参加の途中辞退を認めた。

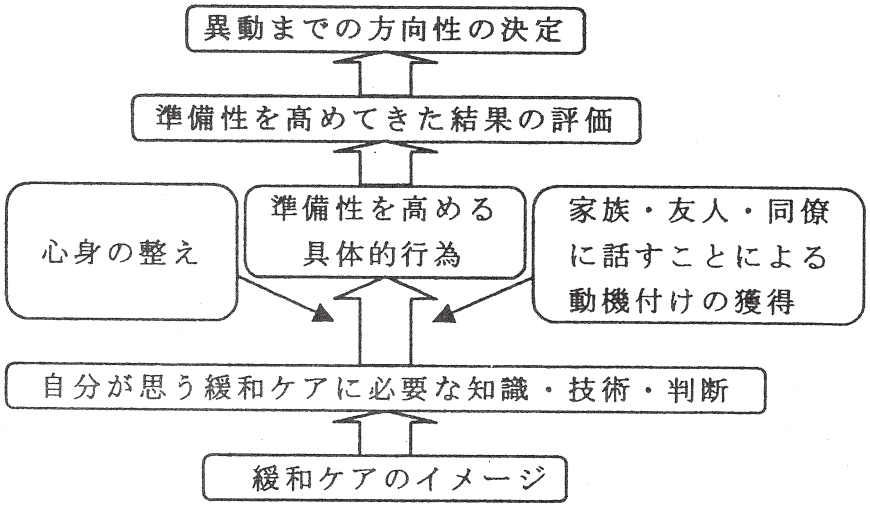
Ⅳ　結果：インタビュー対象者６名の背景は、年齢２０代～４０代、看護師経験年数５～３０年であり、その中で緩和ケア経験者は２名であった。分析の結果、７つカテゴリーが明らかになった。構造図として図１に示す。

Ⅴ　考察：緩和ケアには特別な知識が必要で、不安だと感じている意見が多かった。これは、新設緩和ケア病棟ということで自分達が作り上げなくてはならないという思いや、緩和ケアに対する知識が少なく、自分にできるのだろうかという迷いや不安が根拠にあるのではないかと考えられる。家族や同僚と異動について話をしたという意見からは、まだ迷いや不安のある自分をなんとかして緩和ケア病棟でやっていけるように、自分に言い聞かせようと、意識的にアプローチしているのものと考えられる。その結果、迷いや不安がありながらも「頑張ろうと思った」といったような、前向きな気持ちに変化していた。これは、家族に話すという行動自体が動機付けとなり、準備性を整えていることであると考えられる。知識が少なく、難しいという不安を感じている看護師は、自ら本を読み、勉強会や学会に積極的に参加をし、その不安を解消しようとする行動が聞かれた。これらも結果的には準備性を高

めることにつながっていると考えられる。

また経験者からは、勉強したことや、経験を振り返るといった個人のキャリアを生かす準備性や、さらに、チームとしての意識統一や、情報の共有といった、協働や連携に関する広い視野の意見も聞かれた。緩和ケア未経験者は、知識・技術・判断に関する準備性が多く、緩和ケア経験者は職場環境や協調性に関する準備性が多くみられ、緩和ケアを経験しているか否かで、準備性の内容にも違いがあることがわかった。睡眠を充分とり、生活リズムを整えるなど、身体的・精神的準備性については、経験を問わず語られていた。

川上[1)]は準備性を高める働きかけについて、情緒的支援、教育的働きかけ、調整的働きかけを行うことが重要であると述べている。情緒的支援とは、能力を尊重し肯定的フィードバックを行いながら，意欲を高め，自信をつけていくように働きかけることをいい、教育的働きかけには、準備性を高めるために、適切な情報を提供する教育的働きかけや技術修得への教育的働きかけがあり、やる気を起こさせることも重要であると言っている。緩和ケア病棟勤務異動予定看護師は、緩和ケアに対するイメージから必要になる知識・技術・判断について少しでも得ようと、社会資源を使って学習し、迷いや不安のある自分になんとかして緩和ケア病棟でやっていけるように、他人に話すなど意識的にアプローチするという段階を経て、準備性を高めていた。そしてその結果を自ら評価し、経験・未経験を問わず「行った時の勝負」「何とかなるだろう」と言う方向性の決定が行われているのではないかと考えられる。



（図１：新設緩和ケア病棟に勤務異動する看護師の準備性）

Ⅵ　結論：今回、新設緩和ケア病棟に勤務異動する看護師の準備性として７つのカテゴリーが明らかになった。また、経験の有無により準備性の内容に特徴があることがわかった。

引用文献

１）川上理子：現代看護ことば考「準備性」、臨床看護、25(12)、p1821、1999